

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

◎次世代型“スマート・コンパクトシティ”の形成

本市では、市域の7割が中山間地域が占める地勢の中、独自の「藤枝型コンパクト+ネットワーク」への都市構造転換を目指し、志太榛原地域50万都市圏の広域都心を目指す中心市街地を核に、多彩な魅力を放つ市内各拠点を形成し、それらを公共交通等で有機的につなぐ都市づくりを進めてきた。

中でも、中心市街地については、隣接する政令指定都市・静岡市の政治・経済・商業の都心と差別化した、「志太榛原地域の“生活・交流都心”」を標榜し、2期10年の全目標指標を達成。10年連続転入人口増、4年連続地価上昇率県内1位という成果を出すことができた。

一方で、地方都市ならではの若い世代の流出や中小企業が9割を占める産業構造の中で、都市としての持続力の確保が喫緊の課題となっている。

そこで、藤枝ならではのまち・ひと・しごと創生と好循環を生み出すために、「ふじえだ健康都市創生総合戦略」を策定し、新たな成長戦略として「ICTで人の流れを呼び込むまちづくり」を掲げた。推進母体として産学官の100社・団体の「藤枝ICTコンソーシアム」を組織し、ICTを活用し①次世代人材の育成、②地域産業の競争力向上、③シェアリングによる新しい働き方の提案、の3本柱で本市独自の創生を進めている。また2016年には、自治体では初となるソフトバンク株との地方創生に向けた包括連携協定を締結。さらに、中心市街地のまちづくりにもICTを効果的に活用し、交流と新たなビジネスを創出する取組により「地方再生コンパクトシティ」のモデル都市に選定され、第3期中心市街地活性化基本計画、立地適正化計画と一体となった取組をスタートした。

藤枝市では、20年、30年先を見据え、少子高齢社会における市民の安全・安心や活躍・社会参加、健康長寿化、新たな公共交通ネットワークの構築、産業の生産性向上、都市防災対策、エネルギー効率化など幅広い領域に、IoT、AI等のICTを効果的に活用して全体最適化を図り、強靱でヒト・モノを引き寄せ、将来にわたり持続可能な次の時代のコンパクトシティとして、“スマート・コンパクトシティ”という新たな都市ビジョンを掲げ、「地方再生コンパクトシティ」のモデル都市として、藤枝市から地方都市の新たな都市づくりにチャレンジする。

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>“コンパクト+ネットワークのまちづくり” × “ICTを活用した全体最適化”</p> <p>【成熟期にある中心市街地】 中心市街地のまちづくりは、再開発事業等により、広域都心に相応しい都市機能が集積し、人や民間投資が集まる好循環にあるが、第3期計画を進めるにあたり、成熟期にある中心市街地に新たな付加価値を創造し、持続可能で10年、20年先を見据えた安心で質の高い暮らし、産業や観光のイノベーションする必要がある。</p> <p>【産業の持続性確保・担い手減少】 本市の小売業は、店舗数、従業者数、年間販売額ともに減少し、売場面積は2002年にピークを迎え、その後減少傾向にある。就業人口についても2000年を境に減少傾向である。また、基幹産業がなく、中小企業が9割を占める産業構造の中、人材不足や事業承継が大きな課題となり、将来に向けた新たな事業展開等にリスクがある。</p> <p>【若い女性の流出】 本市では平成27年度まで人口が増加傾向を示し、平成20年度から10年連続で転入が転出を上回っていたが、人口動態の分析では、進学により転出した若者のUターンが少なく、特に女性は3割程度と非常に顕著になっている。</p> <p>【郊外・中山間地域における交通弱者増加】 平成27年度の65歳以上の高齢者の免許返納率は1.3%と低い水準であり、中山間地が多い本市では高齢者の移動における自家用車依存が依然として高い。交通事故発生件数は、例年1,200件を超えており、特に高齢者による交通事故発生率は34.9%と高い割合を占めている。</p> <p>【自然災害リスクの拡大】 本市は内陸部に位置するため、津波や火山等の自然災害リスクはなく、地震や降雨に起因する災害への対策が必要であると思われる。昨年度LPWAを活用したIoT水位計を準用河川等に設置し、出動の効率化を進めている。発生確率が9割を超える南海トラフ大地震や頻発する風水害等にも対応する、都市防災対策やライフラインの持続性が求められる。</p>	<p>ア ウ エ カ キ ク コ サ シ</p>

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

【課題】成熟期にある中心市街地 ⇒ 【解決の方向性】安心で付加価値の高い暮らし・観光交流

メディカルサポートやEMS、買い物支援、シェアリングエコノミー、見守り、動態分析と官民でのマーケティング活用等を検討する。

- ・メディカルサポート ・EMS ・買い物サポート ・商店街振興 ・コミュニティ ・シェアリング(サイクル、車、空間)
- ・見守り ・学び、趣味ニーズへの対応 ・公共サービスワンストップ化 ・インバウンド対応 ・空港連携
- ・動態分析、マーケティング

【課題】産業の持続性確保・担い手減少 ⇒ 【解決の方向性】生産性向上・人材育成

ICT活用も含めた伴走型支援による生産性の向上、BPOの推進、高度IT人材の育成、配送、物流効率化等を検討する。

- ・エコミックガーデニング(伴走型支援)の強化 ・IoT、AI活用推進 ・高度通信基盤(5G)の先行導入
- ・高度IT人材教育 ・配送、物流効率化

【課題】若い女性の流出 ⇒ 【解決の方向性】柔軟に働き活躍できる環境

都市の持続力の確保と柔軟に働き活躍できる環境創出に向け、シェアオフィスやテレワークの推進、女性の企業創業支援等を進める。

- ・託児付きワークスペース(シェアオフィス) ・クラウドソーシング強化 ・ビジネスカレッジ強化 ・テレワークの誘導

【課題】郊外・中山間の交通弱者増加 ⇒ 【解決の方向性】移動支援・安全モビリティ

オンデマンドバスの運行や自動運転モビリティ(MaaS)、配車サービスやシェアサイクルのネットワーク拡大を進める。

- ・オンデマンドバス運行 ・藤枝版交通IC ・自動運転モビリティ ・配車サービス

【課題】自然災害リスクの拡大 ⇒ 【解決の方向性】都市防災対策・ライフライン

南海トラフ大地震や頻発する風水害等にも対応する、都市防災対策やライフラインの持続性を確保する。

- ・無電柱化 ・交通バリアフリー強化 ・帰宅困難者対策 ・事前復興シミュレーション ・道路空間の情報化
- ・災害時通信対策 ・衛生対策(風呂、トイレ等) ・ドローン活用

これら課題解決に結びつく技術の情報を一元管理し、データとデータを組み合わせることにより最適化を行えるデータプラットフォーム

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

上記に掲げている技術・課題解決方法を導入した際、それぞれ単独の対策が乱立することとなり、維持/管理コスト、メンテナンス費用などの課題が出てくることや、各々が独立したまま完結してしまうおそれがある。しかし、各々から取得するデータを組み合わせることで、新しい価値・より効率的な管理・稼働が行える見込みがあり、最適化に向けデータの掛け合わせを推進していきたい。

当市ではすでにIoT/TPFの導入をおこなっており、人流データと道路情報を組み合わせることで、通学路の見直しなど市政への反映、住民への安心安全強化などに取り組んだ実績があり、上記想定技術を順次追加することで、さらなる価値創造と市政反映へつなげ、より高価値なスマート&コンパクトシティとして各課題を解決に結びつける。都市のスマート化については、既成市街地における実現に加え、藤枝型コンパクト+ネットワークの視点に基づき、中心市街地並びに市内全域における各拠点においてモデルエリアの設定を視野に入れている。

(5) その他

◎“スマート・コンパクトシティ”の集大成としてのサステイナブル・スマートシティの形成(将来構想)

藤枝市独自の“スマート・コンパクトシティ”づくりに向けて、各領域でのICTとビッグデータの活用・横展開を積み重ね、こうした産学官での取組の集大成として、将来において新たな土地利用を検討するエリアにおいて、都市基盤づくりまで含めたサステイナブル・スマートシティの形成を検討していく。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
企画創生部 企画政策課 企画創生部 ICT推進室	渡邊章博(企画) 齋藤栄一郎(ICT)	054-643-2055(企画) 054-631-5585(ICT)	kikaku@city.fujieda.shizuoka.jp ict@city.fujieda.shizuoka.jp